

先生

あけましておめでとございます

「無沙汰いたしてお詫言。 私は迷った末、
新年の挨拶を失礼してしまいましたのに、今年も
覚えて下さいました事を大変ありがたく思っております。
変わりなく仕事は続けてお詫言が、何事もなかった様に
振る舞う事はまだできません。私の周囲にいる方々には
ストレスと悩んでいるであろうと思うと、これが新たな悩みと
なっております。

この機会にこれまでの事を少しまとめてお話ししてみたい
と思い、この手紙を書きはじめたお詫言。長くなりそうです。

同封いたしましたのは、一昨年初、学長他に送った
手紙のコピーです。手紙を本そうと思つたきっかけは人伝に
「今回の事は学長のワーマンの結果だ」という語を身に付けたから
です。学長への向題ではないと思つた。たゞ迷い
もあり、先生に助言をいたしたいと思い、このコピーと
同じ様な内容の手紙を出しましたが梨のつぶてでした。

先生は親代わりの音です。
見捨てられたと感じました。それで大学に直接向うにと
決めましたが、不安もあり決心がつくまで毎日の文章を
手書きで書き続けました。便箋を何冊使ったのか覚えて

お礼状が、ボールペンで書かれた時決心がつき
ワープロに打ち直して送りました。 [] の名簿しか
手元にありませんので、それを見て 学長、副学長、補佐
事務局長、評議員の先生方と [] 研究科長の
[] 先生に送りました。他学科の先生方には迷惑な
手紙であったと思いますが、手紙の存在を知っておい
て頂きたいという思いで出された。学長から「拝見しました」
という返事が届きました。次いで [] 先生から「個人的な
感想」としてお返事を頂きました。それだけでした。

約1ヶ月後の [] 学長と事務局の [] と
[] で約2時間話をすることができました。

学長は大体次の様な話をしました。

- [] 教授は「 [] に助手の話をしたのは単なる
雑談としてであり、その後の事は全く知らない。自分は
研究科の人間でありセンターの人事に口を突くはずがない。
その様な立場でもないし権限もない」と言っている。

- [] 教授は「 [] は助手はいらないと言っていた。
何の相談もなく勝手に話を先方にまで通じた後、7月に
突然言ってきた。全く知らなかった」と言っている。装置を
移動するという話も「絶対に言っていない」と言っている。

・ 君の件は7月に教授から報告があった。しかしこの時教授からも助手の希望が出ていた。教授には助手の枠は多いとの条件で君に来てもらったが、現実には要求してきた。仕事の総まとめの意味で2、3年助手をつけることにした。同時に2つの話が進行していた事になる。この責任は学長である私にあると思っている。君の件をダメだと言ったのは私だ。しかし永久にダメだと言ったのではない。次の空席まで待つ様にと教授に伝えた。

・ その後科の教授から要求が続いたとの事だがそれは有り得ない。科とセンターは別組織である。私としては君は人事に深入りしすぎたという印象を持っている。

私の目的は学長の話を聞く事でしたので、ひとつひとつに反論はしませんでした。しかし「深入り」という表現に納得が行かず、「要求はありました。要求に対し席があいているわけではありません。ぼくは助手を採れないのです。いつか採れる日が来たらぼくは自分の採りたい人を採ります。先生が今働きかけて下さっても先生のメリットにはならないと思います。」と答えていたはずですが」とだけ申しました。

■は「その様な要求は■教授にするべきだ。この責任も学長の私にある。謝って気がすむなら謝るがそれでは済まないでしょう。何が希望か」と言いました。私は「何もありません。しかし問題があったと思うのなら大学に持ち帰って調べ、責任のある人が実質的な責任を取るべきです」と言いました。学長は「それをするには場に居ない人、つまり■君を皆で悪者に仕立てる事になる。すでにそうなっている。■やめた方がいい」と言いました。これが学長の答えです。

アパートの一室で男二人が口論になり、遂に一方が銃を持ち外に出て隣の民家の男を撃った。「けんかの相手は■ではなくアパートの中の男です。■は死に男は生きている」■のこぼれです。30年前のある事件です。また別の事件です。「死人には無し。相手方は全てを語らず、証拠も証言も気力もなく民事を断念した。本当の原因は何かその事が今も心の中で宙に浮いてまわっている」

私も同じです。そう思うのは間違っているのか。人が解決すべき事は、いくら待っても時は解決してくれないとの思いが強くなる一方です。

■■■■での四年半、■■■■楽しい時間が
流れていたはずですが、最後にすべて消えてしまいました。

その思いのまま■■■■の世を去り、一方私は生きなければ
なりません。その事が一番悲しく、苦しくなりません。

大学に気づいてほしいのは、この事ですが無理でした。

世の中には私を理解してくれる場所もあります。
今後はそこで自分の気持ちを生かしていきたいと思います。

外にある前に何らかの記録を残していきたいと思います。
先生に手紙として送らせて頂きました。黙ってお手元に
保管しておいて頂ければありがたく存じます。

いつ書き忘れた事があります。■■■■さんのことです。
学長は「■■■■君のことは■■■■君の件とは全く別の話です。
彼は元々期限付きの契約で延長もしている。大学としては
これまでとはおき伝えてあった。結論は出ている。現在も
彼を雇用する予定はない」と言いました。これで私にも
どういう事であったのか九割分わかりました。今でも
ことはおまへん。

■■■■ 1月11日 ■■■■